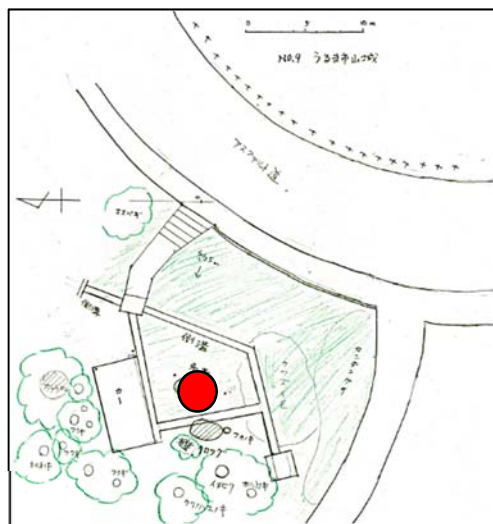


クーガー(ウフガー)のガジュマル



認定番号 9

樹種名	ガジュマル	科名	クワ科	方言名	ガジュマル	学名	Ficus microcarpa. L.f.					
形状・寸法	樹高 17 m	胸高周囲 18.2 m	根本周囲 18.5 m	樹幹占有面積 431 m ²								
	枝下高 7.7 m	枝張 東 11.2 m 西 13.7 m	南 15.5 m 北 6.5 m	最大樹冠幅 24.9 m								
通称	クーガーのガジュマル		樹齢 600 年(推定)	所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明							
所在地	うるま市石川山城271			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拜所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 8 なし				平均気温(°C)	16.6	16.8	19.0	22.2	24.9	28.7	
保護制度	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			(最寄りの7マスデータ)	降水量(mm)	22.0	47.0	95.5	100.0	197.5	38.0	
	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:				平均風速	5.3	4.7	5.1	4.8	4.7	5.8	
周囲の状況	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			地点:那覇	風向	N	N	N	SSE	SSW	SSW	
	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他				月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
土地傾斜	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°)			2015年	平均気温(°C)	29.0	28.7	27.8	25.5	23.8	20.1	
	傾斜方向:				降水量(mm)	369.0	278.0	46.5	63.5	95.0	73.0	
土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			年平均気温	23.6 °C		最高気温 33.8 °C					
	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()				年降水量	1425 mm		最低気温 9.6 °C				
基岩・母材				潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)							
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良							
	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))							
土性	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし							
	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			周辺樹木との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている							
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし											

管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質) 柵内面積 (m ²) 設置年										
	2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他 山城区自治会管理										
過去の治療歴と内容											
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明										
	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)										
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイタビ、オオタニワタリ、サクララン、フウトウカズラ他) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット										

地上部の衰退度判定（認定番号9）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.36

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

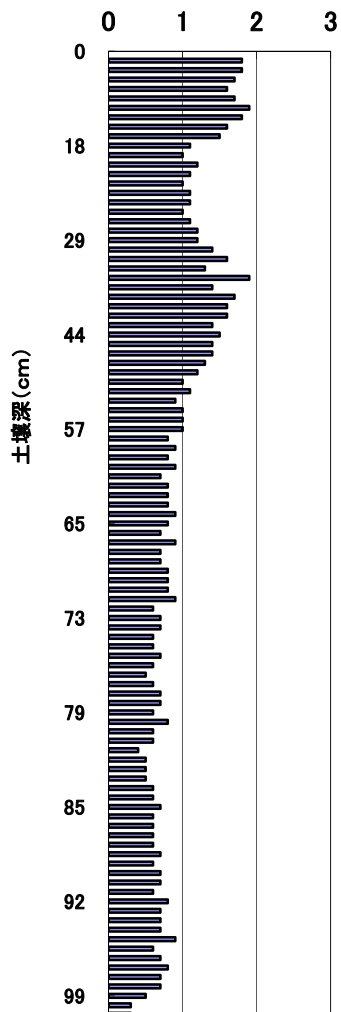
項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ		○		
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他				

土壤調査結果 (認定番号 9)

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)	調査場所
A	10YR3/3	0-7	塊状構造	埴壤土	7.8	2.6	樹木東側
B	10YR3/4	7-23	-	埴壤土			
B2	10YR4/4	23-33	-	埴壤土			
B-C	10YR5/4	33-	-	埴壤土			

土壤貫入量結果

貫入量(cm)



クーガーのガジマル

部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌は国頭マージで土層は1m以上。 ・土性は全層埴壤土でやや堅い程度。 ・pH:7.5~7.8、EC:2.6~3.4(ds/m)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し。
根	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の気根が垂下し、カーの溝に伸び、排水溝に損傷を与えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し
	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼棒貫入の異常は認められない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無し
	<ul style="list-style-type: none"> ・根元は雑草に覆われ、カニクサが樹上に登攀している。雑草の繁茂、つる植物、着生植物の付着が著しく、ガジマルに負荷を与えていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑草、つる植物、着生植物の除去、及び、危険枝の剪定を検討する。
幹	<ul style="list-style-type: none"> ・イチジクカミキリによる露出根の被害が認められる。特に古い露出根に多く見られ、著しく衰退しているか枯死していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外側の新しい根をカミキリ被害から守ることが重要と考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・古い幹は枯れており、その周りを新しい気根が取り巻くように成長している。 ・イチジクカミキリの食害による損傷が認められるが、気根の発達で目立たない。幹内部の強度は低いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に枝が水平方向に伸びており、幹の分岐点、大枝基部に大きな加重がかかっているため強風等により割裂被害が起きやすい。このため、以下の処置を行うことが望ましい。 ①着生植物を除去する。 ②長大な枝を整枝する。 ③大枝から垂下する気根を早期に支柱根にするため、パイプや支柱等を設置して地表に誘導する。
枝	<ul style="list-style-type: none"> ・南面3mの部位に折れた太枝があるが、その上方から垂下した支柱根に巻き込まれている。 ・全体的に枝が水平方向に伸びており、幹の分岐点、大枝基部に大きな加重がかかっているため強風等により割裂被害が起きやすいと思われる。 	
葉	<ul style="list-style-type: none"> ・密度が疎で小型化していることから、樹勢の衰えが推察される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衰退の原因となっているイチジクカミキリの防除により、樹勢の回復が期待される。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・衰弱が進行していると思われる。定期的な清掃(ツル等の除去)と観察が必要と考える。 	

